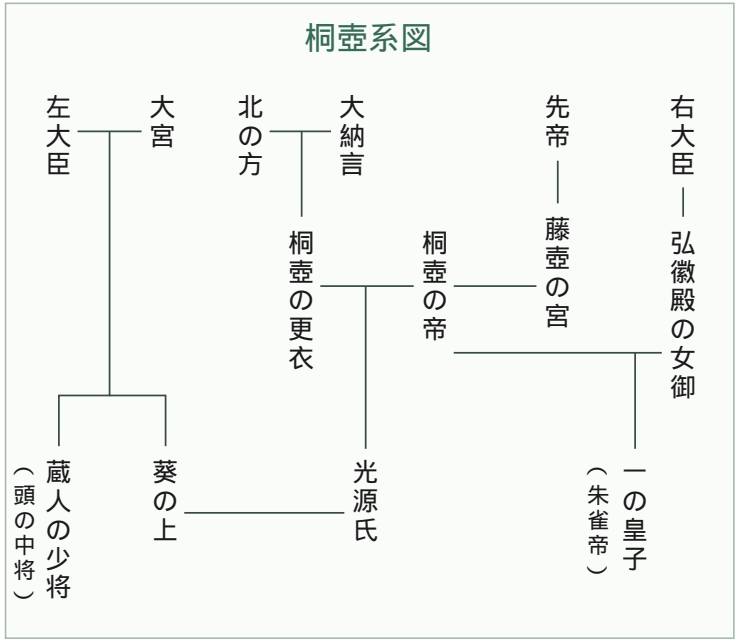
源氏物語〜桐壺〜　解答

問一　紫式部
問二　平安時代
問三　ア　たくさん。
イ　身分が非常に高い。
ウ　病気が重くなっていく。
エ　実家に帰っていることが多い。
問四　帝が、他人の非難を気にして遠慮することがおできにならない様子。
問五　②　こうい　③　かんだちめ
問六　④　身分の高い女御たち。
⑤　帝（桐壺帝）。



本文和訳

いつの帝の御代だったか、女御や更衣が大勢お仕えしていた中に、非常に高い身分ではないのに、とりわけ帝の寵愛を受けている女性がいた。宮仕えを始めたころから、自分こそはと自負していた女御たちは、この女性を目障りな者として見下し、嫉妬なさった。

同じくらいの身分や、その女性より低い身分の更衣たちは、なおさら心穏やかではなかった。

朝夕の宮仕えでも、周囲の人々の嫉妬をかき立てるばかりで、恨みを受け続けたせいだろうか、その女性はたいそう病気が重くなり、心細そうに実家に帰ることが多くなった。

帝はますます物足りなく、いとしい人だとお思いになり、人々の非難も気にして遠慮することがおできにならなかった。その寵愛ぶりは、後の世の先例にもなりそうなほどだった。

上達部や上人なども、困ったことだと目をそむけながら、見ていられないほどの帝の寵愛だと思っていた。